

会報 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

113号
2019年10月15日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

NO安倍！ 改憲発議を許すな！ 非正規職だけの社会にさせない 11/3日比谷野音集会へ

国鉄1047名解雇撤回 闘生とJRの2大闘争へ

臨時国会が10月4日に始まり、安倍首相は所信表明で「令和の新しい時代に、この国のめざす形、その理想をしっかりと掲げるべき」「教育、働き方、社会保障、我が国の社会システム全般を改革していく」「その道しるべは憲法だ。日本がどのような国をめざすのか、憲法審査会でしっかり議論していこう」と演説しました（写真は同日に行われた国会闘争）。



の義務となり、自衛隊の募集業務や報道、学校教育、企業や交

通機関などの協力のあり方など、すべてが変わります。「緊急事態条項」の新設は、事実上、憲法を停止し、首相に独裁的権限を与えるものです。

安倍政権の改憲発議を阻止する闘いに全力で決起しよう。
広島教職員100声明や神奈川の9・23集会（主催：改憲阻止！大行進神奈川）新聞記事参照など、教育労働者を先頭に改憲阻止の新たな運動が始まっ

ています。11・3日比谷野音集を改憲阻止闘争の新たな出発点にしよう。
全国で闘生支援運動を

11・3労働者集会&改憲阻止1万人行進
とき 11月3日（日）正午開始11時開場
ところ 東京・日比谷野外音楽堂

は、1年の間に大阪・滋賀・京都・和歌山に拡大し、逮捕者数は延べ87人、家宅捜索は百数十か所及び、長期勾留が強制され、最高額1人1千万円、総額では一億円を超える法外な保釈金が必要されています。

関西地区生コン支部は、「労働運動の復権」をめざし、毎年11月集会を共に闘ってきた仲間です。10・14東京集会は立ち見が出る大結集となりました。全国で関西生コン支部の支援運動を立ち上げよう。

労組なき社会を許すな

JRの職場でも、昨年2月にJR東日本社長が首相官邸に呼ばれたことを契機に、「労働組合のない企業」「労働組合のない社会」をつくる攻撃が吹き荒れています。

JRで「労組なき社会」のモデルを作り（会社主導による「社友会」への組織化など）、それを社会全体に拡げようとしています。闘生支部とJRをめぐる労働組合解体攻撃との闘いは、すべての労働者と労働組合の未来をかけた闘いです。

動労千葉は9月末に定期大会を行い、関道利新委員長を選出し、組織拡大を実現し次世代の動労千葉をつくる闘いを開始しました（裏面に記事）。

今年の「11・3労働者集会&改憲阻止1万人大行進」は、非常事態下の集会です。闘う労働組合を歴史の最前線に登場させよう。



“関西生コン支部弾圧を許さない”

10・14東京集会を開催 木下武男さん講演

東京・曳舟文化センターで10月14日、「関西地区生コン支部への弾圧を許さない！10・14東京集会」が開催され、250人の結集で大盛況となりました。

一年以上続く連帯ユニオン関西生コン支部への一連の弾圧は、当たり前の組合活動を「犯罪」とみなして関西生コン労組をつぶし、労働運動の禁圧を狙うものです。組合員が働く職場では仕事外しや不当解雇が相次いでいます。

この弾圧は、闘生支部の壊滅を狙う攻撃であると同時に、憲法28条の労働基本権（3権）の破壊を

狙うものであり、まさしく改憲と戦争の大攻撃です。闘生支部は現場からの反響を開始しています。全国の労組や諸団体が抗議の声を上げ、各地で支援の取り組みが始まっています。

集会では、若者の非正規問題や格差問題を取り上げ『若者の逆襲・ワーキングプアからユニオンへ』などの著書を出している昭和女子大学名誉教授の木下武男さんが「関西生コン支部の運動と弾圧の背景」と題して50分の講演を行いました。闘生支部の運動面の歴史的な教訓を掘り下げて権力の弾

圧の背景を明らかにし、弾圧への反撃と労働運動の新たな発展を訴えました。

開会あいさつでは東京西部ユニオン鈴木コンクリート分会の吉本伸幸さんが行い、関西生コン支部からは西山直洋執行委員が不当な弾圧の実態を生々しく報告しました。憲法と人権の日弁連をめぐす会代表の武内更一弁護士が「関西生コン支部弾圧と改憲攻撃」を話しました。映画『棘』の痛みは己の痛み。武健一』の紹介が行われ、共に闘う労組としてスタンダード・ヴァキウム石油自主労働組合、動労千葉などが発言。今後の取り組みについて提起があり、国鉄闘争全国運動呼びかけ人でもある花輪不二男がまとめと団結カンパニーを行いました。

組織拡大へ関道利新委員長を選出

動労千葉が定期大会で次世代の執行体制

動労千葉の第49回定期大会が9月29～30日に開催されました。今大会では新委員長に関道利さん、書記次長に中村仁さんが選出されるなど新役員体制を確立しました。関新委員長は、「非常に重い役目だが、最先頭で闘う。敵は大きいが強くない。一糸乱れぬ団結で闘おう」と決意を語りました。

大会では代議員などから次のような意見が出されました。

◎ミライの車両サービスは、技術革新によって保守体制の転換をするというのが無理だ。運転室の全面強化、トイレのセンサー故障による汚物の逆流、誰かが犠牲にならないと今のJRはやら



◎気動車の検査は特殊なところがある。派出の要員確保

ない

◎台風15号の影響で久留里―亀山間が不通になっている

が代行バスが1時間おきにしている。何か魂胆があるのではない。南線のワンマン化、異常時に乗客の避難誘導など一人で何ができるのか。守る会と一緒に

重い役だが最先頭で闘う

動労千葉委員長 関道利



動労千葉の「第四代目」の委員長になりました。受けるにあたっては非常に苦しみもしました。本当に、役目的には非常に重い役です。非専従役員という

常磐線全線開通反対！ 高線量地帯に列車を走らせるな！

620人が水戸市内で集会とデモ

「高線量地帯は危険」

常磐線 中止求め集会とデモ

JR常磐線の全面再開の中止を求める集会とデモが二十一日、水戸市内であった。JRの社員で組織する労働組合「動労水戸」の呼び掛けで約六百人が参加し、「高線量地帯に列車を通すな」と訴えた。



「高線量地帯に列車を通すな」などと訴えながらデモ行進する人たちが水戸市内を歩いている。JR東日本は来年三月までに全面再開するとしている。

9月22日、水戸市内で「高線量地帯に列車を走らせるな！―常磐線全線開通は安全か？ 9・22水戸集会」が開催され、全国から620人が参加しました。2011年の原発事故で今も高線量の地域でJR東日本は常磐線全線開通を強行しようとしています。労働者と乗客を被曝させない闘いとして全線開通に反対する集会となりました。前半のパネルディスカッションでは、動労水戸の石井委員長やふくしま診療所の布施医師らがパネラーとなり、東京五輪の

なっている。◎貨物の一番の問題は本線運転士の高齢者対策。シニアの基本給の地域間格差が酷すぎる。◎習志野では、要員問題が深刻。三鷹の出入区訓練など、超々大型ロングラン行路化の懸念がある。◎エルダーで残る2年半、本気の本気になって、職場代表選の勝利を活かし全力で組織拡大をかちとっていきたい。

◎ジョブローテーション、ワンマン化と闘う最大の武器が「反合・運転保安闘争路線」。組織拡大で若者世代の不安を一緒に解決していきたい。◎台風15号で運輸区が停電。冷房が効かない休養室で2泊するなど休養がとれず、出退勤も含め会社の対応は大問題。◎出向裁判を「戻るんだ」という意識をもってやろう。

組織拡大、高齢化が進むなかで全組合員が躍起になってやるべき。◎エルダー・シニアの組合員と本体の組合員がこれから逆転する。団交での追及などエルダー協議会の取組を強化したい。田中康宏委員長は「怒りの声は社会に充満している。自らの力で組織拡大すれば動労千葉の社会的影響力はすごい力を発揮する。新体制を支え、全力で決起を」と総括答弁を行いました。

動労総連合1047協議会と共に闘う会。第2回総会で闘いの方針と決意。動労総連合1047協議会と共に闘う会が10月4日、東京都内で第2回定期総会を開きました。解雇撤回を貫くために国労闘争団から動労総連合に結集した労働者によって結成された動労総連合1047協議会を支えるために昨年6月に結成されました。

冒頭、9月6日に逝去した動労総連合・北海道の長尾信一委員長に黙禱をさげました。吉野元久事務局長（動労東京委員長）が方針を提案。1047名解雇撤回をめぐる労働委員会闘争が中央労働委員会へ闘いの場を移し、動労総連合の各単組が不当解雇撤回闘争を中央労働委員会に闘っているとして、両者を一体の闘いとして展開を、と訴えました。

動労総連合・九州の羽廣憲委員長は、「闘いの旗は解雇撤回まで降ろさない。生きている限り降ろさない。たとえ数十人でも解雇撤回まで闘い続ける者がいることに、安倍は大打撃を受けている」と発言しました。被解雇者の決意に応えて運営委員の各メンバーが発言。ある運営委員は、65年の日韓闘争でストを闘った経験と述べ、「韓国への排外主義が吹き荒れる今こそ、闘う労働運動を取り戻そう」と呼びかけました。



最後に、10月29日の千葉県労働委員会審理拒否事件裁判の判決に結集し、11・3全国労働者集会、改憲阻止11万人行進に攻め上ろうと呼びかけました。